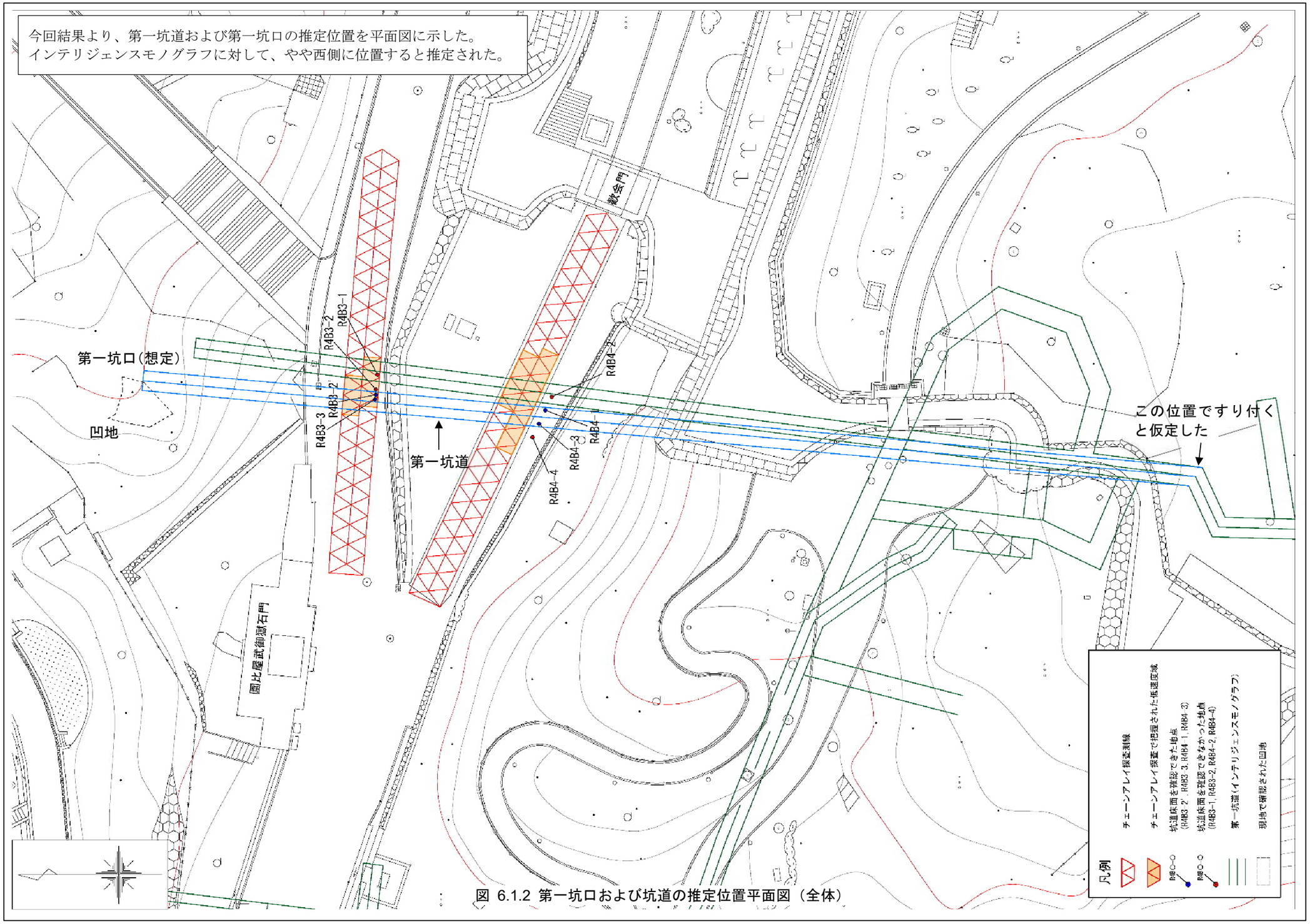
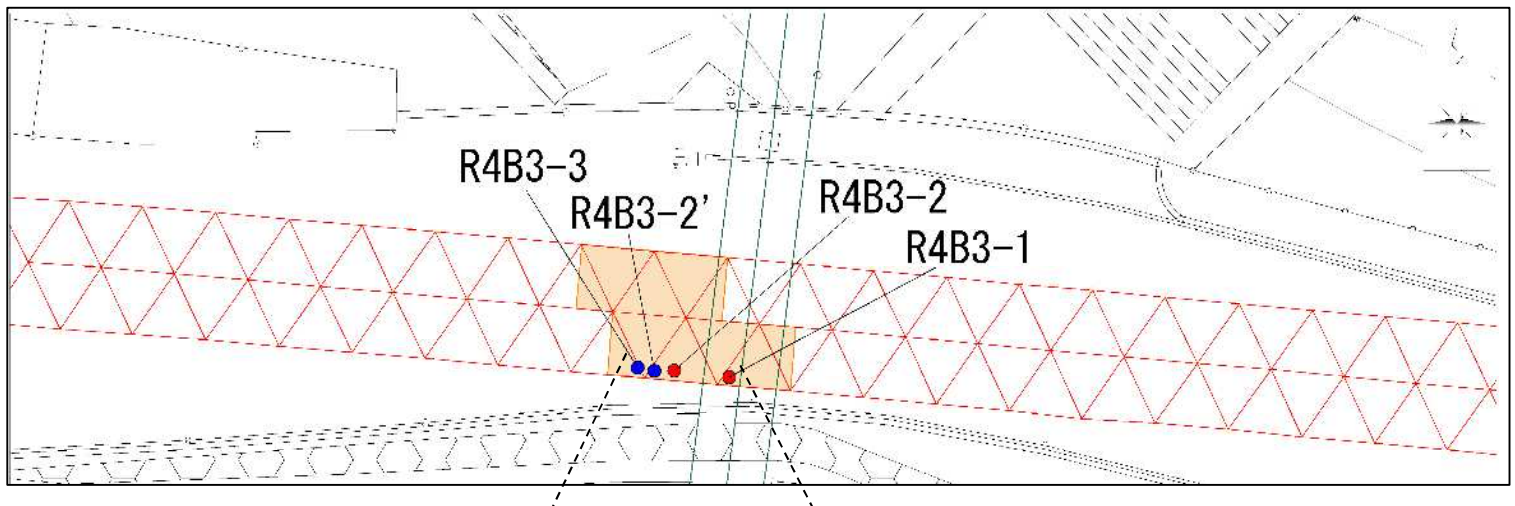


図 6.1.2 第一坑口および坑道の推定位置平面図（全体）

資料３



R4B3-1 地点は坑道に当たっておらず、自然状態の地質状況を捉えている。
※自然状態：壕やそれによって生じた緩み・崩落の影響を受けていない状態

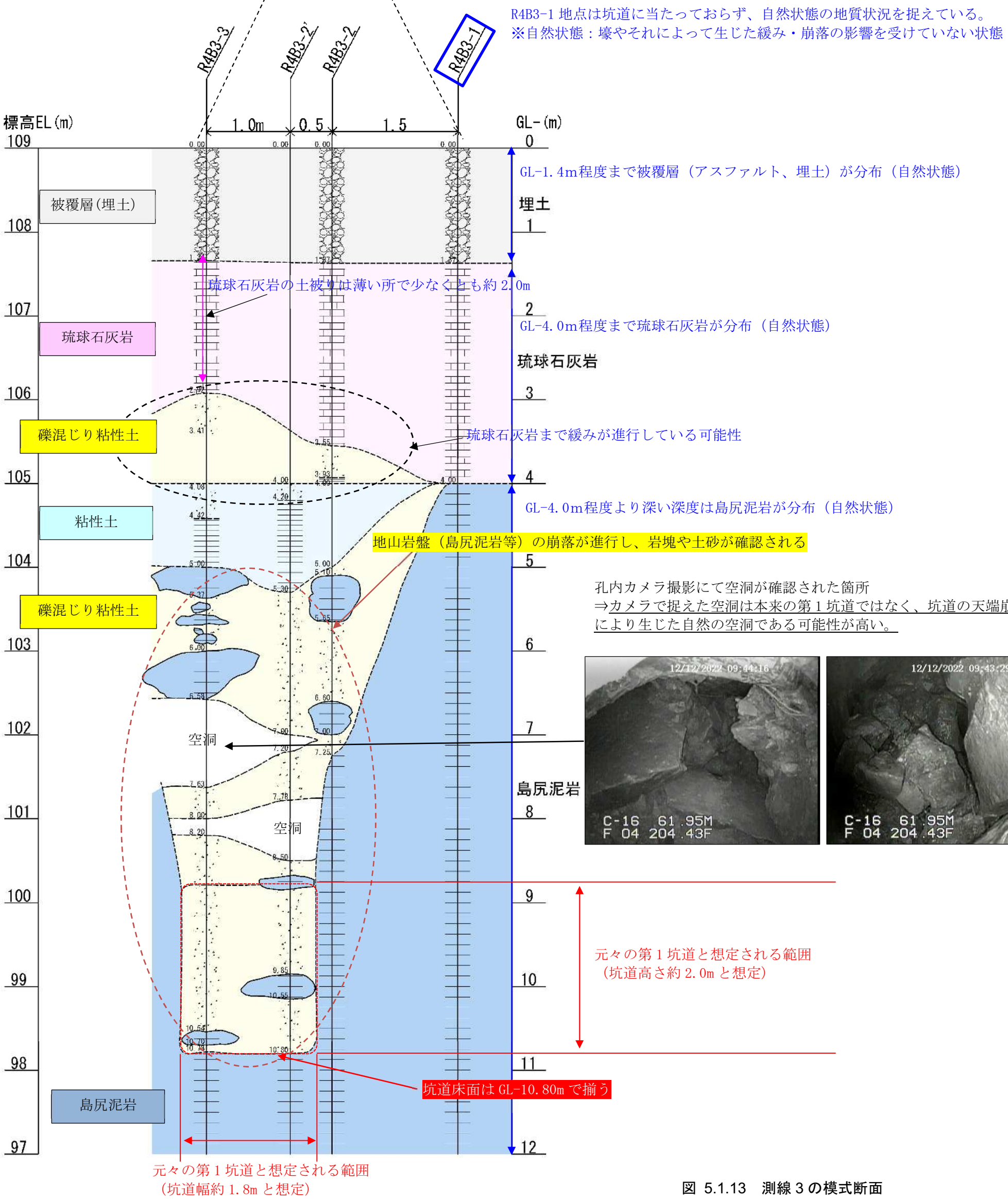
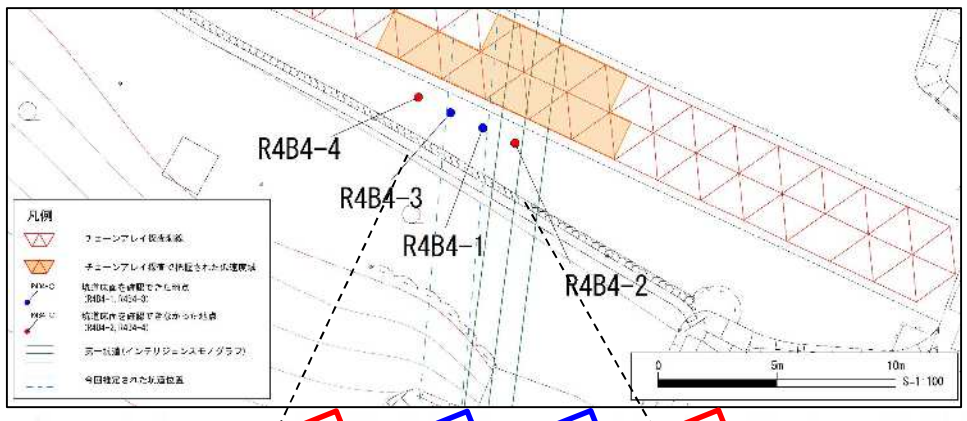
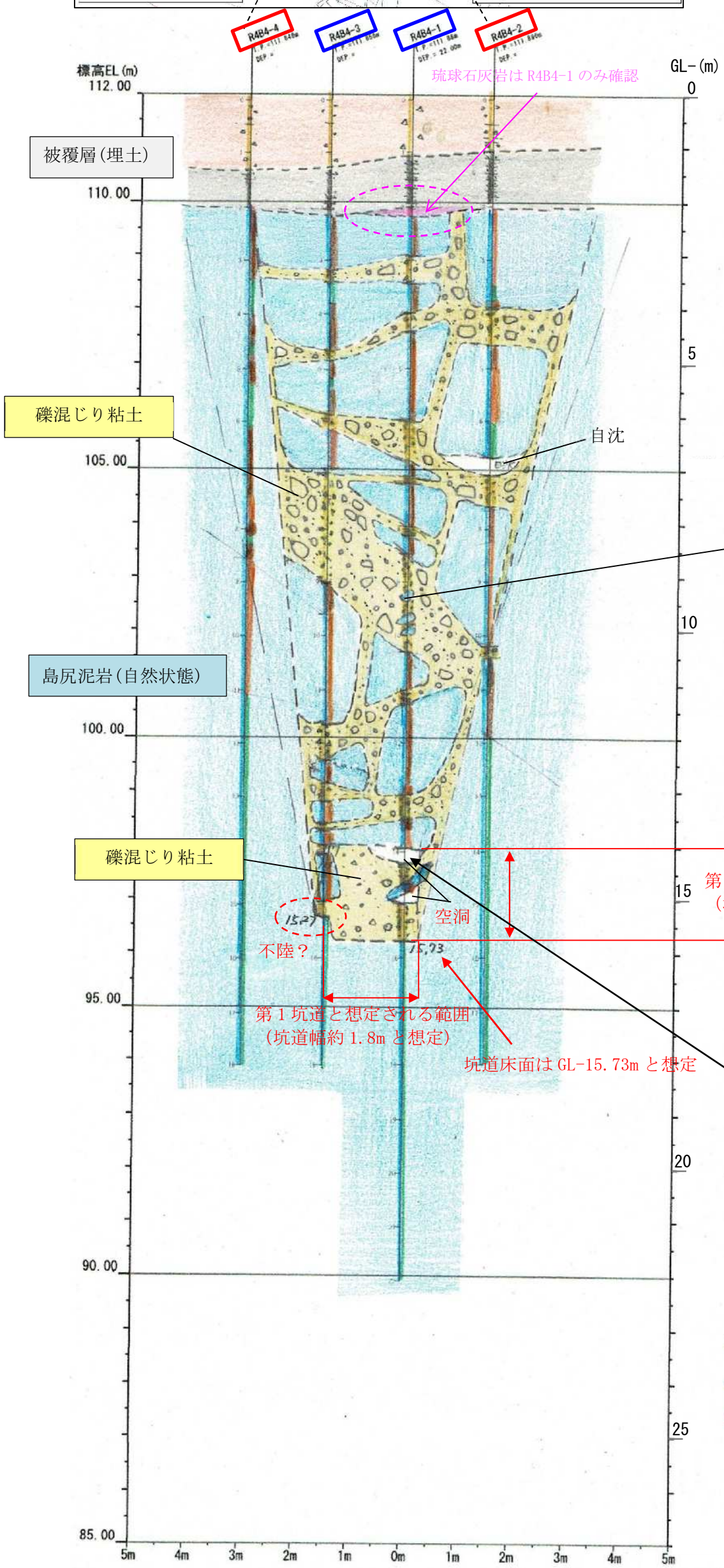


図 5.1.13　測線３の模式断面

資料４





被覆層(礫混じりシルト質砂・粘性土)
・GL-1.5m程度まで石灰岩礫を多く含む礫混じり砂主体が分布
・GL-2.0mまで縞状の粘性土主体で分布

礫混じり粘土
・GL-2.0m程度から最大GL-15.73m(R4B4-1)まで分布

地山岩盤（島尻泥岩等）の崩落が進行

島尻泥岩
・風化部と新鮮部が分布
・B4-2およびB4-2のGL-11.7～11.85mより深い深度は
新鮮な島尻泥岩が分布（自然状態）

第１坑道と想定される範囲
（坑道高さ約2.0mと想定）

孔内カメラ撮影にて空洞が確認された箇所
⇒カメラで捉えた空洞は測線３同様、本来の第１坑道ではなく
坑道の天端崩落により生じた自然の空洞である可能性が高い。

岩芯まで風化
亀裂沿いバンド状風化
新鮮青灰色泥岩

図 5.1.21　測線４の模式断面図